

1 題材 曲の盛り上がりを感じて

2 目標

- 曲の盛り上がりに興味をもち、積極的に教材曲の表現を工夫する活動に取り組んでいる。
- 旋律の音の動きに注意し、曲の盛り上がりを感じ取ることができる。
- 曲想に合った歌い方を工夫できるとともに曲の盛り上がり方を工夫して簡単な旋律をつくることができる。
- 自分の表現と友達表現との違いやよさを聴き合うことができる。

3 指導観

- 本題材は、音楽を形づくっている要素のうち、強弱を工夫し、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることをねらいとして設定したものである。

低学年は、歌うことが大好きで、音楽に合わせて体を動かしたり、歌詞の表す情景や場面を想像して楽しみながら歌ったりする時期である。

また、この時期は、楽曲のよさを感じ取ったり、音楽の諸要素を含んだ学習を行ったりすることで、基礎・基本的な音楽の表現の仕方について学んでいくことが大切である。

そこで、楽曲の気分を味わったり、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取ったりしながら、歌唱の表現を工夫する学習活動を設定した。

ここで取り扱う教材「ひのまる」は、旋律が覚えやすい教材である。また、旋律の動きがシンプルであり、第9小節目に向かってしだいに盛り上がっていく構成であるため、曲の盛り上がりについて学ぶのに適している。

このような学習を行うことは、フレーズ感を感じ取る力や曲全体の構成を理解する力を高めるとともに、音楽を愛好する心情を育てていくうえでも意義深い。

- 児童はこれまでに、「はくのにって」や「どれみであそぼう」などの題材で、音楽に合わせて体を動かししたり、鍵盤ハーモニカで音階を演奏したりする活動を行ってきた。しかし、曲の盛り上がりを意識して歌い方を工夫することはこれからの学習によるところが大きい。

本学級の児童は、音楽の学習において、積極的にかかわり自分の思いや考えをのびのびと表現することができる子どもが多い。また、歌唱活動に関しては、音色のよさを感じ取って歌うことができるようになってきている。

学習の進め方については、教師の発問に対して、積極的に答えようとする姿や、自分の思いをどうにか言葉にあらわそうとする姿が見受けられる。しかし、友達と考えを交えたり、話し合ったりして表現を深めていくことに関しては、十分身につけているとはいえない。

- そこで、本題材の指導にあたっては、曲の盛り上がりを山登りにたとえたり、曲の盛り上がりを生かした音楽づくり活動を取り入れたりするなど、児童が音楽を形づくっている要素について感覚的に考えることができるようにしたい。また、友達と考えを交えたり、話し合ったりする中で、自分たちの思いをもって音楽を表現することの楽しさを感じ取りながら演奏していくことができるようにしたい。

まず導入では、範唱 CD や日本の旗の写真をもとにしながら、これからの自分たちの活動への思いをふくらませ、題材のねらいをつかむことができるようにする。

展開では、「ひのまる」の歌い方の工夫に視点を置き、グループで話し合いながら曲の盛り上がりについて考えることができるようにする。また、教師が用意した歌詞に合わせて児童たちが自分たちで旋律を考える活動を取り入れることで、曲の盛り上がりを生かした演奏ができるようにする。

まとめでは、グループで発表会を行うことで、それぞれの表現の違いやよさを味わい、感じ取ることができるようにする。

4 教材 「ひのまる」(文部省唱歌)

5 指導計画

- | | |
|---|---------|
| (1) 「ひのまる」を聴いて、活動への思いをふくらませ、題材のめあてをつかむ。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1時間 |
| (2) 曲の盛り上がりにつづき、歌い方の工夫をする。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1時間(本時) |
| (3) 歌詞に自分たちで考えた旋律をつけ、鍵盤楽器で演奏する。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2時間 |
| ・ グループ練習をする。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1時間 |
| ・ 発表会を行い、互いの表現の違いやよさを聴き合う。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1時間 |

6 本時の目標

- 「ひのまる」の曲の盛り上がりには気づき、強弱の変化を工夫して歌うことができる。

7 指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	時間	資料・準備
(1) 山の絵を提示し、指人形が山に登る様子を見せる。	○ 紙人形が山に登っている様子を見せながら、登っていくにつれて気持ちが高まっていくことをイメージできるようにする。 「頂上に着いたときはどんな気持ちになる？」 「どきどき？わくわく？」 ○ 音楽の中にも山登りがあることを伝え、児童がスムーズに本時の学習に入っていくことができるようにする。	5分	・山の絵 ・紙人形
(2) 本時のめあてを確認する。 ○ めあて おんがくの山のぼりにきをつけて、「ひのまる」をうたおう。	○ 本時のめあてを確認することで、児童が見通しをもって学習に取り組めることができるようにする。	3分	
(3) 「ひのまる」の曲の盛り上がりはどこにあるか話し合う。 ○ ハンドサインをつけて階名で歌う ○ 全体で話し合う	○ ハンドサインをつけて階名で歌うことで、児童が音の変化に気付くことができるようにする。 「一番低い音と一番高い音はどこかな？」 ○ 山に登るときのイメージから、「ひのまる」の曲の盛り上がりはどこにあるか考えることができるようにする。 「この曲のなかでてっぺんはどこにあるかな？」 「てっぺんに着いたときどんな気持ちになった？」 「てっぺんはどんなふうに歌ったらいいだろう？」 ○ 児童から出た意見をもとに、教師が範唱し、どのような歌い方をするのが適当であるのか考えることができるようにする。	12分	・拡大譜
(4) 強弱の変化を工夫して全体で歌う。 ○ ハンドサインをつけて階名で歌う。 ○ 歌詞をつけて歌う。	○ ハンドサインをつけて階名で歌うことで、音の変化と音楽の山登りと結びつけることができるようにする。 ○ 紙人形が山に登っている様子を見せながら歌うようにすることで、強弱の変化をつけることができるようにする。	15分	・拡大譜
(6) 学習のふりかえりをする。 ○ 学習のふりかえり ○ 次時の学習の見通し	○ 本時の学習をふりかえり、子どもの取り組みについて賞賛することで、自分たちの活動に満足感がもてるようにする。 ○ 次時では、学習したことを踏まえ、自分たちで音楽づくりをするということを伝えることで、次時の見通しがもてるようにする。 「次の時間は山のぼりのあるうたをみんなで作りましょう。」	3分	

8 本時の評価基準

- 「ひのまる」の曲の盛り上がりには気づき、強弱の変化を工夫して歌うことができる。

(表現の技能)【観察】

「ひのまる」

めあて

おんがくの山のぼりにきをつけて
「ひのまる」をうたおう。



拡大譜